憩いと安らぎの里

生馬

まち歩きマップ

ハイキングコース付

松江市生馬公民館

ACCESS

公共交通機関のご案内

- JR（伯備線～山陰本線）で
  - 岡　山 —— JR松江駅 …… 2時間20分
- 飛行機で
  - 東　京 —— 出雲縁結び空港（JAL） …… 85分
  - 東　京 —— 米子鬼太郎空港（ANA） …… 85分
- 各空港よりJR松江駅までシャトルバスで
  - 出雲縁結び空港 —— JR松江駅 …… 30分
  - 米子鬼太郎空港 —— JR松江駅 …… 45分
- JR松江駅より一畑バス（路線バス）で …… 約25分
  JR松江駅より一畑バス ⑥番乗り場（恵曇・古浦・片句・御津）方面行きに乗車し、ガイドマップ内の最寄りのバス停にて下車

《編集・発行》
生馬地区わがまち自慢発掘プロジェクト実行委員会
《協力》
生馬小学校150周年記念事業実行委員会

《お問い合わせ先》
松江市生馬公民館
生馬公民館　検索
〒690-0865 島根県松江市西生馬町8　電話：0852-36-8234
http://matsue-city-kouminkan.jp/ikuma/

2023年11月　発行

① 蓮とミツバチの郷

下佐陀町上の鏡谷は、鏡神社の旧社地が在った所です。鏡池の周りに沢山の蓮が栽培されています。蓮は食用・薬用・観賞用として広い湿田で栽培されています。『蓮は泥より出でて泥に染まらず』といわれるハスの花、すなわち蓮花が毎年辺り一面に咲き誇りとても迫力があります。花見頃は7月の中、下旬頃から8月中旬頃です。

② 遍照寺

天台宗寶正山遍照寺、観音堂の本尊十一面観音座像は、座像としては出雲第一とされる大仏で高さ2.4メートルもあります。開創年は不詳ですが、薦津の阿弥陀堂にあった西光寺が本寺で、当寺は、修験堂の寺であったとの説もあります。

③ 加茂志神社

上佐陀町加茂志にあり、祭神は伊邪那岐命・伊邪那美命が祀られ、『風土記』に記載された古社です。元の社地は、海老山に鎮座していましたが海老山城主新田右馬頭泰国公が城を築くにあたりこの地に遷したと伝わっています。新田八幡宮・鏡神社が合祀されています。

④ 千光寺（長福寺）

曹洞宗天路山千光寺は、本尊正覚如来。創建は不明ですが、博外祖灯大和尚が開山したと伝えられ、祖灯大和尚は、元禄8年（1695）に遷化したとあり、その頃に開山したといわれています。同境内にある長福寺は、出雲霊場27番札所として今も巡礼者が絶えません。

千光寺には西生馬の山本家が携えてきたという武田信玄公の木造と位牌が本堂に安置されています。裏山の海老山城主であった新田右馬頭泰国公の宝篋印塔（高さ2メートル余）が平成24年3月に建立されています。

⑤ 佐陀川と清原太兵衛銅像

佐陀川は、宍道湖より発して北流し鹿島中学校前より西に向きを変え恵曇港までの流長10キロメートルの運河です。

佐陀川は風土記には「佐太川」と記され、講武より流れる多久川と佐陀宮内の仲田から流れる沓川と二流合わさり、佐太水海（今の湯の内）へ流れ、入海にそそぐとあり、当時の佐太川は宍道湖に流入していました。

天明7年（1787）に清原太兵衛によって水害対策のために開削された運河です。清原太兵衛翁の銅像は佐太神社前の身澄ノ池脇の公園に平成21年11月に建立されました。

⑥ 法恩寺

曹洞宗長谷山法恩寺は、本尊阿弥陀如来を安置しています。創立年代は過去数度の火災に遭い不詳です。当寺の記録によれば寛永16年（1639）正月に清光院（黒田町）三世高巌永甫大和尚により再興したものと伝えられています。当寺は元同町内の共同墓地となっている字大門にありましたが、永禄6年（1563）の毛利氏の白鹿山城攻めにより兵火に遭い焼失したと伝えられています。

⑦ 生馬神社（東生馬）

風土記や延喜式に生馬社と記載され式内社とも呼ばれた古社です。祭神八尋鉾長依日子命は、生馬郷の地名神話の神様です。

旧社地は、約300メートル奥地にありましたが永禄6年（1563）毛利元就の白鹿山城攻めにより兵火に遭い社殿は焼失したと伝えられています。その後江戸時代に入って元和7年（1621）に現在地に遷し再建されています。

⑧ 薬師堂

西生馬西谷にあり、本尊薬師如来像が安置され地元では、蛸薬師・薬師さんと呼ばれ親しまれています。薬師如来は入念な造りの厨子に入る石仏で以前は尼寺であったが今は無住です。

⑨ 生馬神社（西生馬）

西生馬の生馬神社は、祭神を道返大神といい風土記に記載されている古社です。『雲陽誌』には大岩大明神とあり、地元では「大岩さん」と呼ばれ親しまれています。祭神の道返とは大きな石のことであり、本殿の後ろには神名のごとく巨大な岩が鎮座しており、ここは原始信仰の場であり、神聖な祭祀地でありました。

⑩ 半田池

半田池は、生馬地域最大の池で風土記の張田池（周囲587メートル）とされています。張田とは水田に水を張る意で、ハリタが訛って半田池となったとされています。半田池下から東部島根医療福祉センター辺りまで条里制跡が残っていました。

⑪ 布奈保神社

浜佐田灘角田にあり、祭神を伊弉諾命・伊弉再命・蛭兒命・鳥岩楠船神の四柱が祀られている。創建年は不詳ですが、風土記に記載された国社です。

社伝によれば、北西に約500メートルの所の宍道湖岸にありましたが、往古戌年の大洪水以来度々水害に遭い後に社殿を移したと伝わり、旧社地の在ったところを宮垣と称します。

⑫ 円光寺

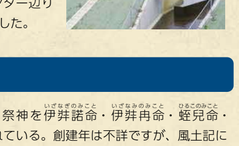
曹洞宗月光山円光寺、本尊薬師瑠璃光如来を安置し、創建は不詳ですが当時は天台宗であったとされ、境内に開基の墓があります。その碑文に「荒隈判官定信圓光坊・清涼院殿江月道照大居士・宝治二年（1248）戌申八月十有五日　寂」とあることから鎌倉中期頃に創建されたといわれています。出雲大社八脚門前で巨大柱が出土して話題を呼んだ宝治2年の正遷宮があった時と奇しくも同じ年代です。

⑬ 浜佐田地蔵堂

浜佐田灘の旧国道沿いに2間に4間の堂宇があり、本尊地蔵菩薩を祀っています。以前には春秋彼岸には、松江をはじめ遠近より地蔵札打ちが盛んであった。松江の橋北地域では、家に新仏が出ると葬儀が終わって2～3日後に大庭の舜夏寺より六地蔵札打ちを行い、外中原町の法眼寺からこの地蔵堂までの六カ所を巡る風習が今でも続けられています。

⑭ 茶屋前橋

佐陀川の河口に掛かる木橋は茶屋前橋と呼ばれ今の橋は平成11年に架けられたものです。橋名は、松江藩主が出雲大社等に参拝される折りに橋を渡った所の加藤家でお茶休憩をされたところから加藤家の屋号に因んで付けられたものです。橋の東袂は、佐陀川を恵曇から松江まで運行していた合同汽船の船着き場があり、又、佐陀川堤防上に一畑電車の停車場（39年に廃止）があり、ここは電車や汽船の乗降客で賑わっていました。



⑮ 潟ノ内

現在の潟ノ内は、天明7年佐陀川開削により東・西潟ノ内に分断されています。風土記に「佐太水海」と記され潟ノ内はその名残です。その周りは沼地で、ドジョウ掬いが盛んで、安来節で歌われている「どじょうすくい」の発祥の地です。

⑯ 天狗山

天狗岩は、東生馬の最奥部の天狗山（214メートル）の尾根にある幅約7メートル縦10メートルある巨岩です。生馬川の源は、この天狗岩の山裾より発しています。この尾根筋は、新山から北に進み三ヶ峰・天狗山・遍照寺谷（法吉側へ下りる。）を通るハイキングコースとなっています。

⑰ 清谷峰

清谷峰は、生馬地域の最高峰で標高235.2メートルあります。この山は白鹿山城の砦が在った所で、大高丸と呼ばれていました。

⑱ おこっさん碑

明治36年（1903）県道加賀線の道路改修工事の際に高田尾峠で、山斜面より横穴墓5基が見つかり、そのうちの1基より人骨が出土しました。地区住民はその人骨を丁重に弔い、高田尾峠に「霊神」と刻した石碑を建立しました。発掘当初「おこっさん」と称して、毎年春秋2回慰霊祭行っていたところ評判となり、遠近より参拝者が増え多いときには、2千人を数え近くには茶店が数軒も出たとされています。

⑲ 諏訪神社跡

諏訪神社は、明治39年に生馬神社に合祀され、今は境内があるのみです。社伝によれば、尼子氏再興を目指していた山中鹿之助が新山城より、佐太名分の大勝間山城に元亀元年（1570）に新山から西生馬を通り、この山路谷の諏訪神社に戦勝祈願をしたと伝えられています。

⑳ 幸の神石碑

江戸時代には、各村々境に幸神を祀り道中の安全を祈願していました。生馬地域にも幸ノ神がありましたが今はほとんど見なくなりました。現在は、名分橋の山側袂に幸の神の石碑が建てられています。近くには一里塚もありましたが今は消失しています。

㉑ 海老山城跡

海老山城は、標高90.2メートルの丘陵上に築かれた低い山城です。この城は、新田氏が長享元年（1487）から延徳元年までの2年かけて築城したものです新田家文書に記されています。この城は、佐太の豪族朝山氏の居城蘆山城と相対峙して築かれています。

新田右馬頭泰国公は、佐太神社神主でもあった朝山越前守綱忠と天文19年（1550）に佐陀神領の争いで戦になり新田氏は朝山氏に敗れ討ち死し落城しました。近年加茂志神社横からの千光寺裏に出る気軽なハイキングコースが整備されています。

㉒ 一丁目地蔵

千光寺前を流れる前川沿いに第27番札所長福寺に参る一丁目地蔵が数基残っています。これは昔のお遍路さんの道標でした。昭和30年代頃迄は、生馬地域内も26番小倉寺（元新山の中腹にありました。）からの一丁目地蔵が巡礼道に点々と残っていました。

㉓ 帳塚古墳

この古墳は、上佐陀公民館の後ろの山中にあり、未発掘で詳細は不明ですが円墳か方墳であり墳頂部に立石が一石あります。昔ここに諸帳を埋めたところで、この立石を叩けば異様な音がするとの伝説があります。

㉔ 法恩寺脇瓦窯跡

法恩寺より約100メートル奥の山の斜面に瓦窯跡がありましたが現在は消失しています。付近から瓦片が多数採取されています。前面の水田中に古代寺院の礎石が1個残っており、昭和48年（1973）の発掘調査により基壇などが見つかり古代寺院であったとされています。発掘された軒丸瓦から平安時代初期のものといわれています。礎石は現在法恩寺境内に移されています。

㉕ 沖ノ石重左衛門建立碑

西生馬出身の力士沖ノ石重左衛門が建立したと伝わる供養塔が字万場に在ります。この石碑は石重左衛門が御津浦より一人で背負ってこの地に運んだものと伝えられ、その石は大人が6人でやっと運べる重さであるという。

㉖ 桜本古墳群

この古墳群は方墳7基が点在し、山裾に横穴石室をもつ古墳がありましたが大正時代に消失しています。現在生馬が丘団地となっている西側の丘陵には敷居谷古墳群が6基（5基消滅）あって、合わせると13基もの古墳が存在していたし、生馬地区では唯一の石室をもつ古墳であったことから、生馬地域の有力首長層の存在が窺えます。

㉗ 名尾荒神古墳

生馬小学校前の松江鹿島美保関線の南の丘陵上に円墳かあるいは方墳が1基あります。

㉘ 大北古墳

国立松江高専から南に延びる丘陵上には、数基の古墳が点在しこの古墳は、名尾荒神古墳より南に200メートル程行った所にあり一辺24メートルほどの方墳で生馬地域内では大きな古墳です。

㉙ 滝戸池

生馬川は往古東生馬の谷の中央部を流れ、東に向きを変え滝戸池に流入し比津に流れていましたが、堀尾氏の松江城築城の際に水攻めを恐れて生馬地区内に流れを変えたと伝わっています。この付近に滝戸石と呼ばれる軟質の砂岩（地元では蕎麦皮石と呼ばれていました。）の石切場が幕末頃までありました。

㉚ 八幡宮

この八幡宮は、下佐陀町土居敷にあり、『雲陽誌』には正八幡宮と記され創立年代は明らかではないですが、高柳城の城主でもありました新田右馬頭の勧請と伝わっています。『佐陀神社内證記』天正6年（1578）に山城国（今の京都府の南部）石清水八幡宮・大菩薩を勧請とあります。又、同文書に城山に本ノ丸は、五間四方・二の丸は八間に十五間・三ノ丸は高さ十間も十五間もありと城郭の規模が記されています。

㉛ 天若宮神社

薦津町北垣に鎮座し祭神は、国狭槌命を祀っています。創建年は不詳ですが一番古い棟札に天正11年（1583）とあることから生馬で一番古いもので、豊臣秀吉・織田信長が活躍していた戦国時代であります。

㉜ 阿弥陀堂

天若宮神社社殿横に阿弥陀堂の境内があります。この阿弥陀堂は、往時寶光山西光寺と称した天台宗の寺があり、下佐陀の遍照寺を末寺にもつ栄えた寺であったと伝わっています。

現在この御堂で正月15日に「御祷式」があり、梁より吊した大鏡餅を切って下ろす行事で「お餅さん」と呼ばれ、信徒は、下佐陀、薦津全地区で4区に別れて奉納します。

㉝ 吉祥寺

曹洞宗瑞雲山吉祥寺、本尊聖観世音菩薩像。開創は元文2年（1737）に黒田町龍雲寺二世中山正甫大和尚により開創され、文化8年（1811）に法吉常福寺五世鈍令和尚により開山しています。

㉞ 殿山城跡（佐陀城）

尼子経久の三男塩冶興久が謀反を起こし、佐陀城（満願寺城の説もあります。）で父尼子軍と争った激戦の様子が『雲陽軍実記』に記されています。松江カントリークラブ（ゴルフ場）建設により消失しました。

㉟ 石田古墳

石田古墳は、薦津と浜佐田町の境にあり、平成14、15年にかけて行われた松江西部農免農道工事の事前調査により、浜佐田トンネルの薦津側谷部から弥生期・古墳時代奈良平安期の遺構、遺物が発見され石田遺跡と命名された。

トンネルの薦津側谷底部より、古墳時代中期頃の円を陽刻した建物の扉板や全長1.92メートルもある日本最長の古代琴や陶塑器に「宿」「宿泊」等が書かれた墨書土器が発見され注目された。（古代琴の原寸大の複製品は公民館に保管されている。）

丘陵上にある石田古墳は、東西12メートル、南北12メートル、高さ1.5メートルの小型古墳、主体部内から銅鏡一面、メノウ製勾玉、ヒスイ製各2点、管玉筒等出土した古墳時代中期頃の古墳。この場所は、薦津地域を見下ろす眺望の良い所にある。

㊱ 柄杓池

この池は浜佐田と比津トンネルの間にあり、風土記の瓠池に比定されている池です。元の瓠池は現在の浜佐田上の住宅地になっている平地が池で、市道の地蔵堂から東に向かう道を古桁道と呼ばれ、古桁とは土堤のことであるから瓠池の土堤であったところといわれています。柄杓池は、松江藩の鷹狩りの場であったと伝えられています。

㊲ 一畑灯籠

円光寺付近。一畑中道といわれる道の横にあり、諸説ありますが一畑灯籠と言い伝えられています。

一畑薬師によれば「講」（参詣講）は現在も続いていますが、特に江戸末期頃より戦前にかけて盛んに行われ、遠くは北九州、因島、備中、高松方面から講参される人のための道しるべとなったのではないかとの説もあります。

※講とは経済・社交・信仰上の目的を達成するために結成された集団。参詣講は旅費を積み立て、講の代表を順番に送り出す代表形式が多い。

㊳ 浜佐田炭鉱跡

この炭鉱は、福松炭鉱とも呼ばれ昭和23～28年まで細々と採炭されていましたが、炭質も悪く6年8月に閉山しました。この周辺部黒田・比津・薦津・国屋等で江戸時代から産出し、『雲陽国益鑑』に、前頭「生馬の石」と載っているのは石炭のことです。

生馬の概要

生馬地域の中心地は、JR松江駅より北西方向に県道松江鹿島・美保関線で約6キロのところにあります。西隈は佐陀川を境に古江地区と接し、平野部は整然と区画整理された水田が広がる農業地帯です。

生馬公民館のある周辺は生馬小学校・同幼稚園。国立松江工業高等専門学校。県立清心養護学校などがあり、学園タウンの感があります。

生馬という地名由来は、『出雲国風土記』（以下風土記と記載）の生馬郷の項に、生馬社の祭神八尋鉾長依日子命が仰せられるに、「吾が御子、平明かにして憐まず。と仰せになり、故生馬と云う。」と記されています。

当時の生馬郷は、現在の生馬地域と異なり、比津・国屋と鹿島町名分の一部を含む地域であったとされています。

生馬地域の沿革

近世の生馬地域は、正保2年（1645）絵図によると、下佐陀村・生馬村・薦津村・浜佐田村の4カ村のみが記されています。その後薦津村以外は、上、下佐陀村・東、西生馬村、柄杓村、浜佐田村の分離、統合等を経て明治時代17年（1884）に上佐陀村・下佐陀村・西生馬村・東生馬村・薦津村・浜佐田村の6カ村となりました。

明治22年4月に市町村制公布により6カ村が合併し、名尾ガ丘に役場を開設して八束郡生馬村となり旧村名は大字名となりました。その後行政区画は、上佐陀・下佐陀上・下佐陀下・西生馬・東生馬・薦津・浜佐田上・浜佐田灘の8区の大字とし、昭和28年（1953）4月に松江市に合併。翌29年8月旧大字は現行の8町名となりました。

鏡谷はす園

生馬の里まち歩きマップ

16 天狗山
17 清谷峰
天狗山
5 佐陀川と清原太兵衛銅像
4 千光寺
2 遍照寺
18 おこっさん碑
9 生馬神社（西生馬）
8 薬師堂
7 生馬神社（東生馬）
20 幸の神石碑
1 蓮とミツバチの郷
19 諏訪神社跡
奥山池
大谷奥池
大谷池
3 加茂志神社
21 海老山城跡
加茂志池
天路前
22 一丁目地蔵
23 帳塚古墳
元場の黐木（もち）
遍照寺池
ハイキングコース１
鏡池
郷戸池
山　路
大岩池
県道御津東生馬線
林道東西生馬線
ハイキングコース２
25 沖ノ石重左衛門の石碑
26 桜本古墳群
24 法恩寺脇瓦窯跡
6 法恩寺
西生馬
梨廻池
淞苑団地
白鳥池
二叉池
主要地方道松江鹿島美保関線
上佐陀
松江市生馬公民館
西の谷入口
生馬が丘団地
10 半田池
池部池
東部島根医療福祉センター
能瀬池
松江工業高等専門学校
下佐陀
下佐陀下
高専前
整肢学園前
島根県立清心養護学校
東生馬
29 滝戸池
比津交番
生馬簡易郵便局
27 名尾荒神古墳
28 大北古墳
JAしまね生馬店
楠（たぶ）の木
客の尾住宅
松江市立生馬小学校
新共栄橋
31 32 天若宮神社・阿弥陀堂
30 八幡宮
佐陀川
講武川
佐陀川橋
35 石田古墳
34 殿山城跡（佐陀城）
36 柄杓池
浜佐田トンネル
比津トンネル
松江西部農免農道
生馬川
廻田池
33 吉祥寺
15 潟ノ内
わしが生まれは
浜佐田生まれ
朝ま早よから
どじょやどじょ
38 浜佐田炭鉱跡
椎池
椎の木ビレッジ
14 茶屋前橋
どじょうすくい発祥の地
ハイキングコース３
一畑電気鉄道
満願寺前
佐陀大橋
浜佐田灘公民館前
円光寺前
妙見下
弁天さんの白椿
小堤池
長池
37 一畑灯篭
11 布奈保神社
13 浜佐田地蔵堂
12 円光寺
松江しんじ湖温泉駅
市街地へ➡
市街地へ➡
⬇市街地へ
1号線
⬅平田

生馬のハイキングコース

コース１　鏡池・遍照寺・千光寺コース（約2.1km）

1 蓮とミツバチの郷 → 2 遍照寺 → 3 加茂志神社 → 4 千光寺（長福寺） → 5 清原太兵衛銅像

コース２　法恩寺・林道東西生馬線コース（約5.2km）

6 法恩寺 → 7 生馬神社（東生馬） → 8 薬師堂 → 9 生馬神社（西生馬） → 10 半田池

コース３　妙見山妙徳寺・六地蔵・茶屋前橋コース（約2.0km）

11 布奈保神社 → 12 円光寺 → 13 浜佐田地蔵堂 → 14 茶屋前橋 → 15 潟ノ内